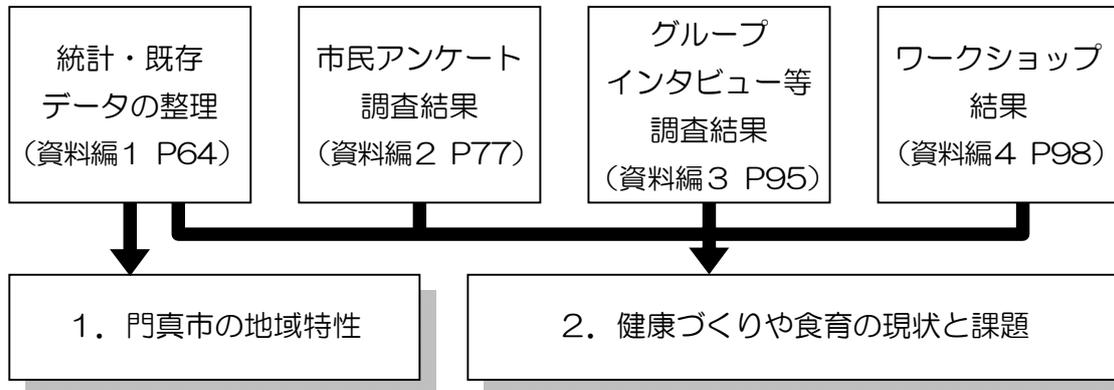


第2章 門真市の健康・食育に関する現状と課題

統計・既存データや市民アンケート調査、グループインタビュー等調査、ワークショップなどの結果を踏まえて、本市の健康・食育に関する現状と課題を整理します。



1. 門真市の地域特性

人口動向	<ul style="list-style-type: none"> ・総人口は微減傾向 ・高齢化率は24.2%で、全国や大阪府より高い（平成24年） ・子育て世代（35～44歳）や60歳代～70歳代前半が多い
平均寿命 健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命（平成19年） 男性77.10歳、女性83.61歳で、ともに全国や大阪府より低い ・健康寿命（平成19年） 男性74.29歳、女性78.06歳で、ともに全国や大阪府より低い
死亡状況	<ul style="list-style-type: none"> ・死因については、悪性新生物が最も多く、心疾患、脳血管疾患がつづく（平成18～22年平均） ・男性は45～49歳や60～64歳、女性は50～64歳で、全国や大阪府と比べて死亡率が高い（壮年期の死亡率が高い）（平成17～21年平均） ・標準化死亡比で大阪府の水準と比較すると、男女とも糖尿病や脳血管疾患の死亡率が高い（平成17～21年平均）
医療費	<ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険被保険者では「高血圧・動脈硬化」、後期高齢者では「腎不全」の医療費が高い（平成23年）
特定健診結果	<ul style="list-style-type: none"> ・男女ともメタボリックシンドローム・肥満・高血圧・高中性脂肪血症・低HDLコレステロール血症・喫煙率の割合が、大阪府全体と比較して高い（平成22年）

2. 健康づくりや食育の現状と課題

<p>運動・ 身体活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女とも 80%程度が1日に必要といわれている歩数（約1万歩）に達しておらず、日常的に身体を動かしている人が少ない ・運動習慣者（1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している人）の割合は、すべての年齢層で全国平均を下回っており、特に、男性20～30歳代や女性30歳代では全国平均の半分以下になっている ・週5日以上運動する子どもは、小中学生ともに全国平均を10ポイント程度下回る
<p>栄養・ 食生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生で不規則な生活習慣に起因する朝食欠食が多い（欠食率は全国平均を3倍程度上回っており、小学生（8.9%）から中学生（13.1%）にかけて4ポイント程度増加している） ・朝食を「ほとんど毎日食べる」人の割合は、小学生で83.0%、中学生で78.0%となっており、全国平均（小学生90.8%、中学生86.8%）と比べると10ポイント程度低い ・男女とも20歳代で朝食欠食率が、他年齢層より高い ・男性では30～40歳代、女性では40歳代で肥満者が多い ・メタボリックシンドローム該当者は年齢とともに増加している
<p>たばこ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での家族の喫煙や街中での歩きたばこ、自転車運転中の喫煙などにより、非喫煙者の受動喫煙の被害が顕著であり、特に子どもへの被害が懸念される ・喫煙経験のある小学生は5.0%、中学生は9.3%、習慣的に喫煙（月に10日以上喫煙）している中学生は1.7%を占める ・子育て世代で喫煙率が高く、特に女性30～50歳代は全国平均を上回る ・妊婦の喫煙率は10.5%で、全国平均の2倍程度となっており、4か月児の母親の喫煙率も10.5%となっている
<p>こころの 健康・休養</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男性30～40歳代や女性20～50歳代では、ストレスを感じる人が80%以上を占めて他年齢層より多く、かつ、ストレスを感じる人でストレスを解消できていない人も40～50%を占める（ストレスが、多量飲酒や喫煙、食生活の乱れなどの他の健康課題を誘発している可能性もある） ・午前0時以降に就寝する小学生は9.7%、中学生は35.4%で、ともに全国平均を上回り、夜型化が進んでいることがうかがえる

<p>歯と口の健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児では年齢とともにむし歯のある割合が高く（1歳半 2.2%⇒2歳半 11.2%⇒3歳半 28.7%）、大阪府平均（1歳半 2.0%、3歳半 22.4%）を上回る（ただし、門真市データは平成23年度、大阪府データは平成22年度） ・小学生ではDMF歯数（1人当たりの「未処置むし歯」「喪失歯」「処置完了歯」の合計数）が1.15歯、中学生では2.39歯となっており、大阪府平均（小学生0.86歯、中学生1.18歯）を上回っている ・20本以上自分の歯を有する人は、男女とも30歳代までは90%以上だが、40歳代を境に大きく減少（40歳代80%台⇒50歳代60%程度⇒60歳代50%程度⇒70歳以上40%程度）
<p>アルコール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男性50歳以上で飲酒習慣者が40～50%を占め、40歳代以下より多い ・男女30歳代では、他年齢と比較して、多量飲酒者が多い ・飲酒経験のある小学生は42.5%、中学生は50.4%を占める ・多量飲酒の影響について、肝臓病やアルコール依存症は認知度が70%を超えるが、その他の疾患や胎児への影響について知っている人は50%に満たない
<p>健康管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男性20～30歳代、女性20～50歳代では、過去1年間に健診を受けた人が80%以下で他年齢層より少なく、特に、男性20～40歳代無職、女性30～50歳代専業主婦の受診率が低い ・健康診査の未受診理由は「なんとなく受けていない」「受けに行くのが面倒なので」が上位を占めており、健診受診のメリットや重要性の周知・啓発が必要となっている
<p>食育への関心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食育に関心がある成人は70%以上を占めているが、実践している人と実践していない人に二極化している（食育を実践していない人では、「何をしたらいいかわからない」人が目立つ）
<p>食を通じたコミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を一人で食べる小学生は19.4%、中学生は41.8%で、年齢とともに増加し、全国平均（小学生11.4%、中学生30.4%）を10ポイント程度上回る ・夕食を一人で食べる小学生は2.8%、中学生は9.3%で年齢とともに増加し、全国平均（小学生1.5%、中学生5.6%）を上回る ・食事を楽しいと感じない小学生は3.0%、中学生は7.3%で、夕食を一人で食べる小中学生ほどその割合は高い
<p>食への感謝と食文化の継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しを「もったいない」といつも感じている子どもは30%程度、食べ残しを減らす努力をいつもしている子どもは50%台となっており、成人（それぞれ65.9%、69.4%）を下回っている